

「生活者としての外国人」のための日本語教育

# ハンドブック

文化庁文化部国語課



## <目次>

1	はじめに	1 ページ
2	ことばの説明	3 ページ
3	生活者としての外国人に対する日本語教育の目的・目標	5 ページ
4	それぞれの冊子の説明	9 ページ
4. 1	カリキュラム案	9 ページ
4. 2	ガイドブック	11 ページ
4. 3	教材例集	13 ページ
4. 4	能力評価	15 ページ
4. 5	指導力評価	17 ページ
5	こんな形で使ってください	19 ページ
5. 1	日本語教室を立ち上げよう！	19 ページ
5. 2	日本語教室を見直そう！	23 ページ
5. 3	教材を作ろう！	24 ページ
5. 4	人材を育成しよう！	25 ページ
5. 5	地域とつながろう！	26 ページ
6	地域における日本語教育の体制整備に向けて	27 ページ
7	実践のためのお助け早見表	29 ページ
8	Q & A	33 ページ

まずは、5点  
セットの紹  
介から。



目的に合わ  
せて使っ  
てみよう。



## <コラム>

①	日本語教育小委員会	1 ページ
②	「生活者としての外国人」ってだ～れ？	6 ページ
③	「生活者としての外国人」と日本語学習	6 ページ
④	地域における日本語教育の多様な学び	22 ページ
⑤	行動・体験中心の教室活動	22 ページ
⑥	社会参加	28 ページ
⑦	エンパワーメント	28 ページ

# 1 はじめに

グローバル化の急速な進展に伴い、人の国際移動も活発化することが見込まれる中、言うまでもなく、日本語は我が国における共通言語であり、日本語能力を身に付けることは、外国人が日本で生活していく上で極めて重要です。

文化庁では、日本語を母語としない住民の日本語学習のニーズが高まっていることを踏まえ、平成 19 年 7 月に文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会（以下「日本語教育小委員会」といいます。）を設置し、日本語教育施策に関する検討を行ってきました。

日本語教育小委員会では、まず、日本語教育に関する課題の把握を行い、平成 20 年には「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備及び内容の改善について検討しました。そして、平成 21 年 1 月には「国語分科会日本語教育小委員会における審議についてー日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討ー」の取りまとめを行いました。



## <コラム①> 日本語教育小委員会

平成 13 年 1 月に国語審議会や著作権審議会等が整理・統合され、文部科学省に文化審議会が設置されました。平成 19 年 7 月、文化審議会の国語分科会に日本語教育小委員会が設置されました。

日本語教育小委員会は「外国人に対する日本語教育に関すること」を審議することとなっていて、平成 26 年 8 月現在、60 回以上開催されています。カリキュラム案等の 5 点セットもこの委員会で検討され、作成されたものです。

日本語教育小委員会は、開催の 1 週間前に文化庁のホームページで案内されます。事前に申し込みをすれば傍聴が可能ですので、みなさま、一度、傍聴してみませんか？

その後、平成 21 年 1 月に取りまとめられた「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等に基づき、以下の冊子（5 点セット）を作成してきました。

## 日本語教育小委員会における検討とその成果物（5 点セット）について

- ①平成 22 年 5 月  
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について  
(以下「カリキュラム案」)
- ↓
- ②平成 23 年 1 月  
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案  
活用のためのガイドブック  
(以下「ガイドブック」)
- ↓
- ③平成 24 年 1 月  
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案  
教材例集  
(以下「教材例集」)
- ↓
- ④平成 24 年 1 月  
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について  
(以下「能力評価」)
- ↓
- ⑤平成 25 年 2 月  
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について  
(以下「指導力評価」)

本ハンドブックはこの 5 点セットの全体像や具体的な活用方法について説明するものです。

「生活者としての外国人」に対する日本語教育は、常に変わり続ける地域の状況、外国人のニーズに対応できるように、Plan（企画）—Do（実施）—Check（点検）—Action（改善）という PDCA サイクルを回していくことが重要です。



地域によって、5 点セットをどのように活用するか、どのような日本語プログラムを作成し、実践するかということは異なりますが、本ハンドブックで少しでもヒントをつかんでもらえれば幸いです。

## 2 ことばの説明



ここでは、5点セットによく出てくることばについて説明します。

### 1. 指導者，コーディネーター，協力者

学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる人のことを「(地域日本語教育) 指導者」と呼んでいます。

また、直接的な日本語の指導を除き、日本語教育を企画・実施する行政や地域の関係機関等において、日本語教育プログラムの作成を行ったり、行政と関係機関間や関係機関間の調整を行ったりする人のことを「(地域日本語教育) コーディネーター」と呼んでいます。

さらに、地域住民や、学習者の母語が分かる人や外国人など教室活動に協力してくれる人のことを「協力者」と呼んでいます。

ただし、指導者もコーディネーターも、一定の役割の人に対する便宜上の名称であって、特定の資格者や勤務形態にある人を指すものではありません。また、実際には一人の人が同時に複数の役割（例えば、指導者とコーディネーターなど）を果たすこともあります。

### 2. 生活上の行為

カリキュラム案では、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容として、来日間もない外国人が基本的な生活上の基盤を形成するために必要であるもの及び安全に関わり緊急性があるものを選び、生活上の行為として示しています。

### 3. 能力記述

5点セットでは、それぞれの生活上の行為の事例について、日本語でできるようになるために必要な具体的な行動達成目標を「能力記述」とし、その内容を「～できる」という形式で示しています。

例えば、「警察（110番）に電話する」という生活上の行為の事例では、「住所や電話番号などを伝えることができる」「起こったことを順序立てて説明ができる」「警察官の質問や指示を理解し、適切な受け答えができる」などを能力記述として挙げています。なお、「能力記述」という用語は「キャンドゥーステートメンツ (can-do-statements)」の訳として用いています。

#### 4. 行動・体験中心の教室活動

「生活者としての外国人」に対する日本語教育は、日本語について知り、日本語に関する知識を蓄えることではなく、日本語を使っていろいろな生活上の行為ができるようになることを目指しています。そのため、教室活動も講義や説明中心だけではなく、実際に体験したり、行動したりする中で日本語を使うことが重要だと考えています。そのため、指導者には「何をどう説明するか」ということよりも、「誰とどこでどのような活動をするか、その中でどのような日本語を使うか／学ぶか」という教室活動のデザインが求められます。

(※「コラム⑤ 行動・体験中心の教室活動」もお読みください。)

#### 5. PDCAサイクル

指導力評価では、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの企画（Plan）、実施（Do）、点検（Check）、改善（Action）のサイクルをPDCAサイクルと呼んでいます。

地域における日本語教育では、外国人の数や状況、ニーズを把握し、それに合わせた日本語教育プログラムの実践が重要になりますが、常に状況やニーズは変わり続けます。それに合わせて、日本語教育プログラムがうまく変わり続けるためにも、PDCAサイクルを確立することが期待されます。

### 3 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

日本では日本語が主たるコミュニケーション手段となっていることから、「生活者としての外国人」には、生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする日本語能力を獲得することが求められます。

日本語教育小委員会では「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を以下のように設定しています。

#### 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

##### 目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

##### 目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

5点セット（カリキュラム案，ガイドブック，教材例集，能力評価，指導力評価）は全て、上の目的・目標に沿って作成されています。また、必ずしも全てそのまま使うのではなく、必要な部分を選び出し、さらに工夫を加えるなど、地域の状況に合わせて活用してください。

9ページからは、それぞれの冊子について見ていきましょう。





## <コラム②> 「生活者としての外国人」ってだ～れ？

そもそも「生活者としての外国人」という言葉は「外国人労働者問題関係省庁連絡会議」（事務局は内閣官房）で平成 18 年の春ごろから使われ出しました。その会議での検討結果は「生活者としての外国人」に関する総合的対応策」（平成 18 年 12 月）としてまとめられています。

「生活者としての外国人」は日本に居住する外国人の生活の側面に焦点を当てる言葉であり、日本語教育小委員会では「生活者としての外国人」とはだれもが持っている「生活」という側面に着目して、わが国において日常的な生活を営むすべての外国人を指すものである」としています。外国人も「地域で暮らす生活者」であり、住民であるということを示す言葉です。

なお、文化庁では、生活に関する日本語学習の支援を行うため、平成 19 年度から「生活者としての外国人」のための日本語教育事業などを行っています。



## <コラム③> 「生活者としての外国人」と日本語学習

「生活者としての外国人」は、まとまった学習時間を確保することや毎回、日本語教室に通うことが難しいという人が少なくありません。

「今日は残業で行けません」、「子供が熱を出したので参加できません」といったことはよく起こります。「生活者としての外国人」だからこそ、毎回来られるとは限りませんし、家で予習・復習などの日本語学習の時間が取れるとは限りません。一度、二度と休んでも、教室活動についていけるように、1 回完結型のプログラムを組んだり、通訳や協力者を配置したりするといった工夫が求められるところです。正にコーディネーター、指導者の腕の見せ所ですね。

# 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の

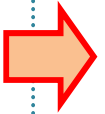
## ～背景・課題～



仕事や研究…ではなく、生活の部分に対する日本語教育について検討。

### 【グローバル化】

- ・グローバル化が進展し、人の国際的な移動も活発化
- ・日本に在住する外国人数の増加
- ・日本国内の日本語学習者数の増加



### 【目的に対応した日本語教育の必要性】

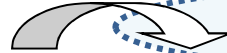
- ・生活上の基盤を形成する上で必要となる日本語教育（「生活者としての外国人」に対する日本語教育）の内容・方法が十分に確立されておらず、開発が必要。

## 5 点セットを作成！

指導者について

教室活動

教室活動のデザインと参加



### 【目的】

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

### 【目標】

日本語を使って

- 健康かつ安全に生活を送る
- 自立した生活を送る
- 相互理解を図り、社会の一員として生活を送る
- 文化的な生活を送る

ことができるようにすること

### 指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成へ

#### 【内容】

日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るための資料として

- 指導力評価項目一覧（実際にはそれぞれの現場の状況や指導者の状況に応じて、必要な項目のみ選択して活用）
- 日本語教育プログラムの実践や研修受講の記録の様式
- 研修のプログラム例

などを掲載しています。

生活上の行為の事例の一覧(多言語)

作成：平成 25 年 2 月 18 日

(p.17～18 参照)

### カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

#### 【内容】

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容として

- 来日間もない外国人が生活上の基盤を形成する上で必要であると思われる生活上の行為
- 生活上の行為の学習項目の要素（能力記述、場面、やり取りの例、機能、文法、4 技能に関する情報）

などを掲載しています。

能力記述

作成：平成 22 年 5 月 19 日

(p.9～10 参照)

# 内容・方法 5点セットの全体像について

## ～検討・提示～



ほかにも事業の企画や、教室活動の際にも使用したり、参考としたりしてください。

日本語教育小委員会において、

＜どんな人に活用していただきたい？＞

- ・一義的には各都道府県、市区町村における日本語教育担当者及びコーディネーター的役割を果たす人

＜どんな人に対応するために？＞

- ・「生活者としての外国人」（全ての外国人の生活の側面）

＜何をするのか＞

- ・生活上の基盤を形成する上で必要な日本語教育を行う際の内容・方法

について検討



指導者について、学習者について、指導者と学習者が出会う教室活動の内容や方法についてまとめています。

の内容について

学習者について

参加

行動・体験中心の教室活動への参加による日本語学習、相互理解



### ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせてするときのポイントの解説

#### 【内容】

カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントとして

- カリキュラム案における言語・言語習得の考え方
- カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイント
- 日本語教育プログラムの作成手順
- 活動方法の例の具体的内容を掲載しています。

生活上の行為の事例の一覧(多言語)

作成：平成23年1月25日

(p.11～12 参照)

### 教材例集

◎行動・体験中心の教材の例

#### 【内容】

カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示しています(教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き)。

※教材例集は文化庁WEBサイトからダウンロードし編集して使用することができます。

能力記述(詳細版)

作成：平成24年1月31日

(p.13～14 参照)

### 能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録する

#### 【内容】

学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示しています。

※能力評価は日本語教育プログラムの一環として行うものです。

生活上の行為の事例の一覧(多言語)

能力記述(詳細版)

作成：平成24年1月31日

(p.15～16 参照)

## 4 それぞれの冊子の説明

### 4. 1 カリキュラム案

#### ①内容

～教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示～

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示しています。具体的には、「来日間もない外国人が生活上の基盤を形成するために必要であると思われるもの」として、「生活者としての外国人」が日本語で行うことが期待される「生活上の行為の事例」(p. 12～13)と「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素(能力記述, 場面, やり取りの例, 機能, 文法, 語彙, 4技能:p. 14～93)」、「生活上の行為を行う上で必要となる社会・文化的情報(地震や台風, 電気・ガス・水道の使用開始に関する手続きなどの情報:p. 94～98)」を取り上げています。

#### カリキュラム案で扱う生活上の行為

##### I 健康・安全に暮らす

- 01 健康を保つ
  - (01) 医療機関で治療を受ける
  - (02) 薬を利用する
  - (03) 健康に気を付ける
- 02 安全を守る
  - (04) 事故に備え, 対応する
  - (05) 災害に備え, 対応する

##### II 住居を確保・維持する

- 03 住居を確保する
  - (06) 住居を確保する
- 04 住環境を整える
  - (07) 住居を管理する

##### III 消費活動を行う

- 05 物品購入・サービスを利用する
  - (08) 物品購入・サービスを利用する
- 06 お金を管理する
  - (09) 金融機関を利用する

##### IV 目的地に移動する

- 07 公共交通機関を利用する
  - (10) 電車, バス, 飛行機, 船等を利用する
  - (11) タクシーを利用する
- 08 自力で移動する
  - (12) 徒歩で移動する

##### VII 人とかわる

- 14 他者との関係を円滑にする
  - (31) 人と付き合う

##### VIII 社会の一員となる

- 15 地域・社会のルール・マナーを守る
  - (33) 住民としての手続をする
  - (34) 住民としてのマナーを守る
- 16 地域社会に参加する
  - (35) 地域社会に参加する

##### IX 自身を豊かにする

- 20 余暇を楽しむ
  - (44) 余暇を楽しむ

##### X 情報を収集・発信する

- 21 通信する
  - (45) 郵便・宅配便を利用する
  - (46) インターネットを利用する
  - (47) 電話・ファクシミリを利用する
- 22 マスメディアを利用する
  - (48) マスメディア等を利用する

※カリキュラム案 (p.12～13) に, さらに具体的な生活上の行為の事例を掲載しています。

また、カリキュラム案に基づく教室活動の展開の例として、「標準的なカリキュラム案の活用例（実践例）（p. 100～107）」と、教室活動で用いる

ことができる「教室活動の方法の例（p. 110～112）」を提示しています。

2 生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素

○生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素  
…こんな形で一覧になっています。

（凡例）

- 単位間もない外国人にとって、基本的な生活基盤を形成するために不可欠であると考えられる「生活上の行為」。実生活に不可欠な技能性がある「生活上の行為」のいずれかに該当すると考えられるものを示す。
- ▲ 単位間もない外国人にとって、基本的な生活基盤の形成に不可欠であり、かつ複雑なコミュニケーションが必要とする。自ら主体的に学ぶべき「生活上の行為」。又は状況にかなり柔軟性がある「生活上の行為」のいずれかに該当すると考えられるものを示す。
- 単位間もない外国人にとって、基本的な生活基盤を形成するために、又は、実生活にかなり柔軟性があるため、種別として取り上げられる必要があると考えられるものを示す。
- 「やり取りの例」において学習者以外（日本人等）の発言を示す。

内容	事例1「生活上の行為」	事例2「下位項目」	能力記述	場面	相手	状況・動作	やり取りの例	機能	文法	語彙	読解	聴解	発話	読解	聴解	発話
(0.1.1) ● 医療機関で診療を受ける	0103010 ● 個人に診察を伝えることができる	個人に診察を伝えることができる	個人に診察を伝えることができる	自宅	個人	病院～行きたいが、この病院に行かない方がいいから知らない	A1: 「どこが痛いですが、どこの病院に行ったらいいですか、」 B1: 「〇〇に整形外科がありますよ。」 A2: 「耳が痛いんですが、どこの病院に行ったらいいですか、」 B2: 「耳が痛いなら、耳鼻科に行ったらいいですよ。」	情報要求 情報提供 情報要求 情報提供	疑問詞「が（前置詞）」 イ音節首音素連発「ん」で言い切る 動詞「た」+たら「いい（疑問）」 終助詞「か（疑問）」 終助詞「に（存在）」 終助詞「よ（存在）」 格助詞「が（状態の対照）」 格助詞「ど」（疑問）」 終助詞「の（疑問）」 格助詞「に（到着点）」 終助詞「かなら（仮定）」	「どこ（体の部位）」 「どこ」 「行く」 「整形外科（診療科目）」 「耳鼻科（診療科目）」 「耳鼻科（診療科目）」	○	○	○	○	○	○

## ②対象

各都道府県、市区町村における日本語教育担当者等、各地域において日本語教育のコーディネーター的役割を果たす人に活用されることを想定しています。

そのほかにも、各都道府県、市区町村において、日本語教育施策や事業の企画を行う人や、教室活動を行う人などに利用されることを想定しています。

## ③活用の仕方

目の前の学習者に何が必要か、何ができるようにしたいか…。「生活上の行為の事例」や「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」を参考に日本語教育プログラムを作成してください。

そのとき、「生活上の行為の事例」を全て取り上げないといけなくはありません。また、カリキュラム案に載っているままの形で使わなければいけないわけではありません。

目の前の学習者がそれぞれの地域で生活していく上で、必要なものを選び出し、工夫を加えてください。

また、既に日本語教育プログラムを作成している場合は、カリキュラム案を参考に、その日本語教育プログラムが「生活者としての外国人」に対する日本語教育に沿ったものになっているか、是非、一度振り返ってみてください。

## 1 医師の診察を受ける (0103010) ○活用例（実践例）

### (1) 取り上げる生活上の行為の事例と能力記述

大分類	I 健康・安全に暮らす
中分類	(01) 健康を保つ
事例	・ 医師の診察を受ける
能力記述	・ 症状を伝えることができる ・ 医師の診察、指示が理解できる

### (2) 教室活動の展開例

教室活動の内容	サポート情報等
<b>1. 体の部位の名称、症状を表す表現を確認する</b> ・ 身体図を用いて、体の部位の名称を理解する。 ・ 症状を表す表現の日本語と母語の対照表を用いて、日本語での言い方を確認する。	<参考資料> ・ 多言語医療用語辞書（※入手法第113ページ参照）
<b>2. 医師が発する指示の表現を理解する</b> ・ 病名と対称の表現の日本語と母語の対照表を用いて、日本語での言い方を確認する。 ・ 指導者が医師役となり、医師が発する指示の主なものを例示する。	<参考資料> ・ 多言語医療用語辞書（※入手法第113ページ参照）
<b>3. 医師の診察を受ける</b> ・ 指導者や日本人協力者に症状を伝え、診察を受ける練習をする。また、学習者同士でロールプレイを行う。	<教室活動の方法> ・ ロールプレイ（※110ページ参照）
【命題例】 学習者：「どこが痛いんですが、」 指導者：「口を大きく開けてください。」 / 「お風呂に入らないでください。」	・ 出身地（国）でかぜを引いたときの対処法について話しあってもよい。

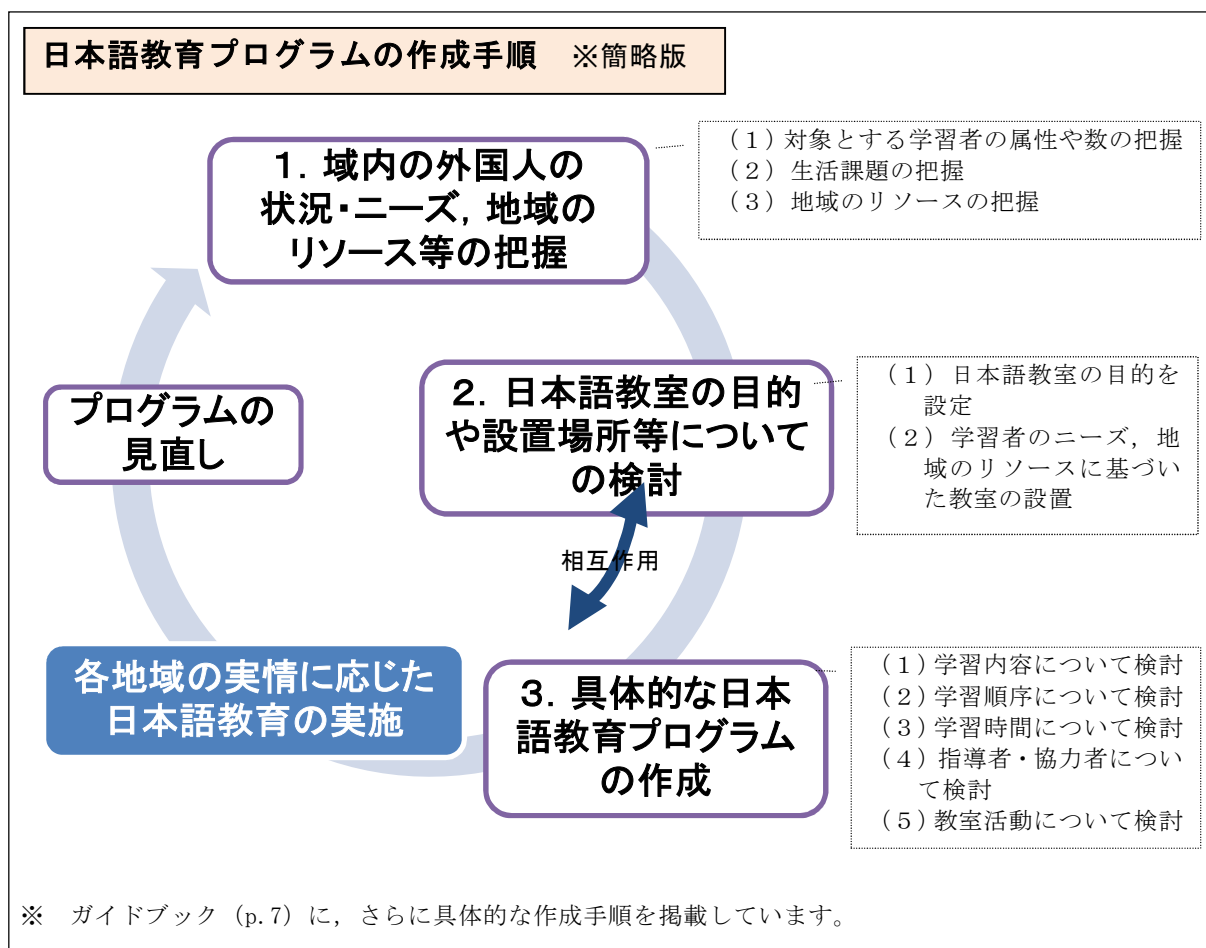
## 4. 2 ガイドブック

### ①内容

～カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせる時のポイントの解説～

カリキュラム案で取り上げている内容は「来日間もない外国人が生活上の基盤を形成するために必要であると思われるもの」ですが、特に地域の状況や外国人の来日の目的などの多様性を反映しているものではありません。

そのため、それぞれの地域で日本語教育プログラムを作成する際に、地域や外国人の状況に応じた工夫を加えることが必要になります。ガイドブックでは、カリキュラム案で示した日本語教育の内容にどのように工夫し、日本語教育プログラムを作成すればよいかということについて説明しています。





ガイドブックでは、カリキュラム案における言語・言語習得の考え方について（ガイドブック p.2～3）のほか、カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイント（ガイドブック p.4）、「日本語教育プログラムの作成手順」（ガイドブック p.7～14）で地域や外国人の状況に合わせてどのように工夫をすればよいかを説明しています。

また、その作成手順に基づき、日系人就労者のAさん、国際結婚で来日したBさん、技能実習生のCさんに対する日本語教育プログラムの例を示しています（ガイドブック p.15～36）。

## カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイント

- 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫
- 行動・体験中心の活動
- 専門家・地域住民との協働
- 対話による相互理解の促進

※ガイドブック（p.4）に詳細があります。

さらに、行動・体験中心の活動を行う際の参考として、活動方法の例の具体的内容（ガイドブック p.37～52）を示しています。

最後に、学習者に合わせた日本語教育を行うためには、学習者のニーズを把握することが欠かせませんが、何ができるようにになりたいか、何を勉強し

**生活上の行為の事例 ～ 多言語版**

【한국어: 조선어】 韓国・朝鮮語

【中文: 中国語】 標準教程案中有相关内容

【Português: ポルトガル語】 Exemplos de situações de

**I 건강하고 안전하다** (健康安全地生活)

**01 건강을 유지한다** (01 在医疗机构就诊)

01 열 사람에게 응대  
02 초진 접수부에서  
03 의사의 진찰을 받고  
04 질병에 대한 대처  
약을 이용한다

**02 약을 이용한다**

01 의료기관에서 처방전  
02 증상을 설명하고 약을  
03 약제사 등이 효능, 용법  
04 유해성 설명에 대한 경  
한다

**01 保持健康**

**01 在医疗机构就诊**

01 告诉邻居病情  
02 在初诊挂号处办理  
03 接受医生的诊察  
04 询问疾病的应对法  
答复

**02 服药**

01 在医疗机构得到处方  
02 说明病情, 要求开药  
03 理解药剂师等有关「功  
用」  
04 理解药  
- 7 2017년 1월 24일

**01 Manter a saúde**

**01 Receber tratamento em instituição médica**

01 Informar o sintoma ao vizinho e lhe pedir conselho  
02 Fazer os trâmites na primeira consulta  
03 Ser atendido pelo médico  
04 Perguntar ao médico sobre os métodos de tratamento e os cuidados no dia-a-dia, e compreender a sua resposta

**02 Tomar o remédio**

01 Receber a receita médica na instituição médica, e confirmar o seu conteúdo  
02 Explicar o sintoma, e solicitar remédio  
03 Compreender a explicação do farmacêutico sobre a eficácia, modo de uso e os cuidados do remédio  
04 Cuidados com a saúde  
01 Compreender a informação sobre as doenças

たいかということを把握するための資料として生活上の行為の事例の多言語版（中国語、英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語）を掲載しています（ガイドブック p.53～65）。また、ホームページには23言語を掲載しています。  
[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/nihongo\\_curriculum/index\\_2.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/index_2.html)

## ②対象

各都道府県、市区町村における日本語教育担当者等、各地域において日本語教育のコーディネーターとしての役割を果たす人に活用されることを想定しています。そのほかにも、各都道府県、市区町村において、日本語教育施策や事業の企画を行う人や、教室活動を行う人などに利用されることを想定しています。

## ③活用の仕方

カリキュラム案、教材例を活用するときの手順やポイントを確認し、是非、一度、各地域のオリジナル日本語教育プログラムを作成してみてください。

## 4. 3 教材例集

### ①内容

～行動・体験中心の教材の例示～

教材例集では、以下の生活上の行為について、行動・体験中心の教室活動で用いる教材の例を示しています。

#### 教材例集で取り上げている生活上の行為

##### I 健康・安全に暮らす

- 01 健康を保つ
  - (01) 医療機関で治療を受ける
  - (02) 薬を利用する
  - (03) 健康に気を付ける
- 02 安全を守る
  - (04) 事故に備え、対応する
  - (05) 災害に備え、対応する (地震)
  - (05) 災害に備え、対応する (火事)

##### II 住居を確保・維持する

- 04 住環境を整える
  - (07) 住居を管理する

##### III 消費活動を行う

- 05 物品購入・サービスを利用する
  - (08) 物品購入・サービスを利用する
- 06 お金を管理する
  - (09) 金融機関を利用する

##### IV 目的地に移動する

- 07 公共交通機関を利用する
  - (10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する
  - (11) タクシーを利用する
- 08 自力で移動する
  - (12) 徒歩で移動する

##### VII 人とかかわる

- 14 他者との関係を円滑にする
  - (31) 人と付き合う

##### VIII 社会の一員となる

- 15 地域・社会のルール・マナーを守る
  - (33) 住民としての手続をする
  - (34) 住民としてのマナーを守る
- 16 地域社会に参加する
  - (35) 地域社会に参加する

##### IX 自身を豊かにする

- 20 余暇を楽しむ
  - (44) 余暇を楽しむ

##### X 情報を収集・発信する

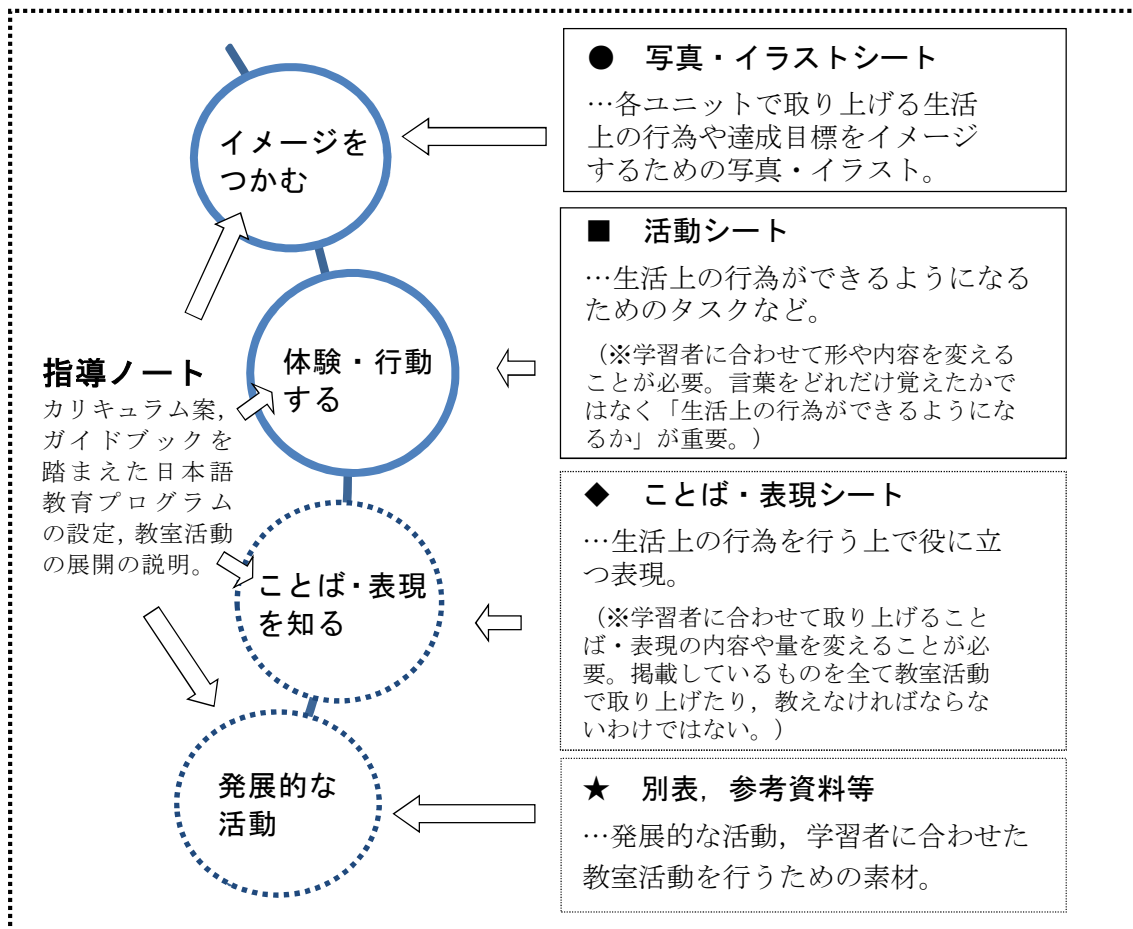
- 21 通信する
  - (45) 郵便・宅配便を利用する
  - (46) インターネットを利用する
  - (47) 電話・ファクシミリを利用する

### ②対象

各都道府県、市区町村における日本語教育担当者等、各地域において日本語教育のコーディネーター的役割を果たす人に活用されることを想定しています。そのほかにも、各都道府県、市区町村において、日本語教育施策や事業の企画を行う人や、教室活動を行う人などに利用されることを想定しています。



## 各教材例の構成の図



※ ●, ■, ◆, ★について, 各教材例の対応するシートに同じ印を付けています。

※ 「ことば・表現を知る」, 「発展的な活動」の点線は教材例によっては, 対応するシートがないことを意味します。

### ③活用の仕方

それぞれの教材例は「写真・イラストシート」, 「活動シート」, 「ことば・表現シート」, 「別表・参考資料」から構成されており, 文化庁WEBサイトからダウンロードし, 編集することができます。地域の状況に合わせて, 写真やイラストを変えたり, 表現や単語を変えたり

して, 地域の状況や学習者のニーズ, レベルに合わせた教材を作成してください。また, 適宜, 他の教材や資料を組み合わせるなどして教室活動を展開してください。

**教材例集 ～例えば…買い物のところ～**

この教材例集は、学習者の生活に役立つ表現を学ぶための教材です。教材例集には、写真・イラストシート、活動シート、ことば・表現シート、別表・参考資料等が収録されています。

教材例集の構成は、学習者の生活に役立つ表現を学ぶための教材です。教材例集には、写真・イラストシート、活動シート、ことば・表現シート、別表・参考資料等が収録されています。

## 4. 4 能力評価

### ①内容

～振り返りの方法とポートフォリオの提示 やったことを確認して記録する～

学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを示しています。

日本語能力を把握する方法についてはロールプレイにより、日本語を用いて生活上の行為がどの程度できるかということを以下の水準により判定することとしています。

#### 「生活上の行為」がどの程度達成できたかを評価する4水準

よくできた	学習者が、その場面で期待される最低限の目的以上のことを、日本語母語話者等周りの人からの特別な援助や配慮なしで達成できる状態
できた	その場面で期待される最低限の目的が、日本語母語話者等周りの人からの特別な援助や配慮がなくても達成できる状態
なんとかできた	その場面で期待される最低限の目的が、日本語母語話者等周りの人からの特別な援助や配慮（ゆっくり繰り返す、別の言葉で言い換える、相手の発話を辛抱強く待つ、相手の言いたいことを推測して確かめる、一部で相手の母語を使って説明する、など）を受けることでどうにか達成できる状態
もう一息	意思疎通がうまく成立しない、またはその場面で期待される最低限の目的も達成できたとはいえない状態

(能力評価 p. 41)

自己評価やロールプレイの結果、さらに日常生活の中でどのように日本語を使っているか、どのような日本語を学んだかということ記録するファイルとして日本語学習ポートフォリオを提示しています。

### ②対象

基本的には指導者との話し合いや協力者の協力を得たりしながらも、学習者が活用することを想定しています。

### ③活用の仕方

基本的には、学習者が自分にできるようになったことを確認したり、これからの日本語学習の目標や計画を立てる際に活用したりすることを想定しています。そのほかにも指導者が学習者と一緒に日本語学習の目標や計画を立てたり、教室活動を考えたりする際、学習者が日本語でできることを協力者が確認したりする際に活用することを想定しています。

【生活上の行為の事例のリスト】					
生活上の行為	4技能 /情報	年月日	場所 (教室名)	私の 評価	指導者の 評価
<b>I 健康・安全に暮らす</b>					
<b>01 健康を保つ</b>					
<b>(01)医療機関で治療を受ける</b>					
01 購入に容態を伝えて助言を求め	話聞			◎○△	◎○△
02 初診受付で手続をする	話聞読書			◎○△	◎○△
03 医者の診察を受ける	話聞			◎○△	◎○△
04 病状への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する	話聞			◎○△	◎○△
<b>&lt;医者ややりとりをする&gt;</b>					
03 医者の診察を受ける	話聞			◎○△	◎○△
04 病状への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する	話聞			◎○△	◎○△
<b>(02)薬を利用する</b>					
01 医療機関で処方せんをもらい、内容を確認する	話聞読			◎○△	◎○△
02 症状を説明し、薬を求める	話聞読			◎○△	◎○△
03 薬剤師等の「効能、用法、注意」の説明を理解する	話聞読			◎○△	◎○△

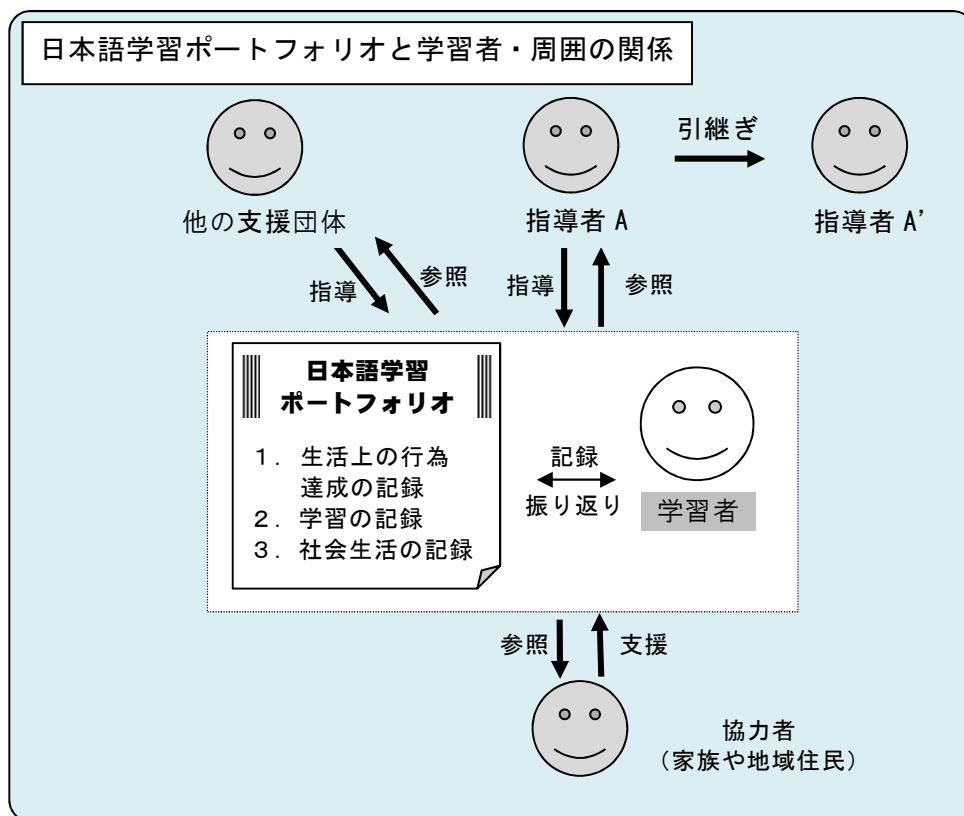
#### ポートフォリオ ～生活上の行為の事例のリスト～

なお、ここでの能力評価は、日本語教育プログラムの一環として行われるものです。例えば、教室活動で学んだことが、「よくできた」「できた」という評価を得られれば、学習者は達成感を感じるだけでなく、その達成感が継続的な日本語学習の意欲につながると考えられます。

また、「なんとかできた」という評価の場合は、コミュニケーションを達成させるために、どのような配慮が必要だったかということ振り返ることで、学習課題として残っていることを知ることができます。また、教室活動を離れて、今、学習者が一人でその生活上の行為を行うためには、本人にどのような準備が必要なのか、周りのどのような手助けが必要なのかについて考える材料になります。

「もう一息」は、その生活上の行為が学習者にとって優先順位が高いものであれば、再度日本語教育プログラムの中に組み込まれるべきものであることとなります。

また、日本語学習ポートフォリオによる記録をうまく活用することで指導者間での引き継ぎが可能となります。学習者が教室を移動しても、継続的に日本語を学べるのが期待されます。



## 4. 5 指導力評価

### ①内容

～実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成へ～

日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルから振り返るためのものです。

指導力評価項目一覧（簡略版） ※詳細は指導力評価（p.22～29）を見てください。

Plan-Do-Check-Actionの別	
指導力評価項目	
<b>Plan（企画）</b>	
<b>I 地域や外国人の状況の把握</b>	
1. 地域の外国人の状況の把握	
2. 地域のリソース等の把握	
<b>II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置</b>	
3. 日本語教室の目的の設定	
4. 日本語教室の設置	
<b>III 具体的な日本語教育プログラムの作成</b>	
5. 学習内容の検討	
6. 学習順序の検討	
7. 学習時間の検討	
8. 指導者・協力者の検討	
9. 教室活動の検討	
<b>Do（実施）</b>	
<b>IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施</b>	
10. 日本語教室の運営	
11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施	
12. 教室活動の記録・振り返り	
<b>Check（点検）</b>	
<b>V 日本語教育プログラムの点検</b>	
13. 日本語教育プログラムの状況の分析・課題の把握	
<b>Action（改善）</b>	
<b>VI 日本語教育プログラムの改善</b>	
14. 日本語教育プログラムの改善計画の作成・改善の実施	

また、実践を振り返るチェックシートのほかに、日本語教育プログラムの実践や研修受講の記録の様式、研修のプログラム例を記載しています。

## ②対象

行政や地域の関係機関との連携の下、日本語教育プログラムの実践に携わるコーディネーター、そして指導者を主な利用者として想定しています。

## ③活用の仕方

指導力評価項目一覧はPlan-Do-Check-Actionの四つの段階から構成されており、全部で113項目ありますが、全ての人に全ての項目が必要なわけではありません。日本語教室におけるそれぞれの役割に合わせて必要な項目を選択し、指導力評価に関する自分用のチェックシートを作成してください。

参考として、指導者を始めて3か月のAさん、3年のBさん、コーディネーターを始めて3か月のCさん、3年のDさんを例として取り上げ、どのようなチェックシートを作ればよいかということを示しています（指導力評価 p. 30～39）。

### チェックシートの例

②チェックシートの例  
チェックシートの例1 指導内容、方法、教材・教員の準備に関する項目

指導者Aさん  
(経験3か月)

経歴：指導者として活動目的で3か月です。  
 教室での役割：1週間に1回、1時間半、主婦の方に教えています。毎回のテーマや目標は、コーディネーターが事前に学習者と相談して設定してくれていますが、教材は自分で集めて準備しています。  
 現在の課題：学習者と学習目的や進捗の面で、読み・聴き・書きのバランスが、今のままではどのくらい不安定です。どういふことを意識して取り進めたいのか、悩むことが多いです。

Plan-Do-Check-Actionの別	実施	評価の記録
指導力評価項目	実施項目	1月 2月 3月 4月 5月 6月
<b>Plan(企画)</b>		
<b>I 地域や外国人の状況の把握</b>		
1. 地域の外国人の状況の把握		
2. 学習者のニーズを把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 学習者が求める学習活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>III 具体的な日本語教育プログラムの作成</b>		
5. 学習内容の検討		
(7) 学習内容について検討している		
24. 2)で選択した生活上の許容から、より具体的な事例を選択している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
25. 2)で選択した具体的な事例を基に地域の支援や学習者の日本語のレベルに合わせた学習内容を検討している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
26. 学習と指導者、協力者が取扱いの社会、文化について学び合えるような学習内容を検討している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>Do(実施)</b>		
<b>IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施</b>		
10. 日本語教室の運営		
(14) 日本語教室の運営体制が適切である		
43. 日本語教室に関する学習者の希望や意見を聞いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 例3) 地域の実情に応じた日本語教室の設置に向けて

対象	地域日本語教育コーディネーター
目的	地域の状況に応じた日本語教室を新たに立ち上げる上で、必要な能力を身に付ける。(特に必要な行政や関係機関等との連携体制のあり方について)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や外国人の状況の把握               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外国人の状況の把握の方法</li> <li>・地域のリソース等の把握</li> </ul> </li> <li>○日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置の考え方               <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室の目的の設定</li> <li>・日本語教室の設置</li> </ul> </li> <li>○具体的な日本語教育プログラムの作成</li> </ul>
流れ	
<b>(1日目)</b>	
10:00～	説明 オリエンテーション
	協議① 地域や外国人の状況の把握について
	協議② 学習者の状況の把握の方法及び留意点について
12:00～	協議③ 学習者のニーズの把握の方法及び留意点について
13:00～	協議④ 地域のリソース等の把握の方法について
14:00～	協議⑤ 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置における留意点について
15:00～	協議⑥ 日本語教室の運営に当たって必要な連携について考える
15:30～17:00	まとめ 課題提示(課題:地域や外国人の状況の把握)、1日目の振り返り
<b>(2日目)</b>	
10:00～	説明 オリエンテーション
	協議⑦ 地域や外国人の状況に応じた日本語教室の目的について考える
	協議⑧ 必要なリソース・連携体制について考える
12:00～	協議⑨ 具体的なプログラムについて
13:00～	協議⑩ 日本語教育プログラムの作成について
14:00～	事例紹介 他地域の日本語教育プログラムの紹介
15:00～	まとめ 課題提示(課題:日本語教育プログラムの作成)

**研修のプログラム例**

また、一人でじっくりと自分の実践を振り返る時間も大事ですが、チェックシートや研修受講の記録を見せ合い、お互いに気付いたことについて意見交換をしたり、指導力の向上の役に立ったことについて情報交換したりすることも有益です。

さらに、個々人の指導力の向上だけでなく、日本語教育プログラムの点検や改善にも役立ててください。

指導力評価に関する項目一覧は文化庁WEBサイトからダウンロードして、パソコン上で加工し、記録をすることができるようになっています。

## 5 こんな形で使ってください



ここでは地域における日本語教育について、実際に教室を立ち上げる際、教室を見直す際、教材を作成する際、人材を育成する際、地域とつながる際に5点セットがどのように活用できるか、見ていきましょう。

### 5. 1 日本語教室を立ち上げよう！

#### 「Ⅰ. 地域や外国人の状況の把握」をしよう

地域の状況（地域における外国人の増減とその理由等）、域内の外国人の状況（生活課題等の個別の状況等）について把握することが必要です。情報収集の方法について、外国人本人にアンケートやインタビューを行うだけでなく、行政関係機関や地域住民等と幅広く継続的に情報交換を行うことが地域の状況・外国人の状況の適切な把握につながります。



#### こんなとき…

#### ここを使ってみてください。

日本語学習のニーズを知ろう

「生活上の行為の事例一覧（多言語版）」を使って、できるようになりたいこと、勉強したいことを聞いてみよう  
⇒ **ガイドブック** (p. 53~65)

日本語学習ポートフォリオの「学習の記録」や「社会生活の記録」を使って、普段、日本語をどうやって使っているか聞いてみよう

⇒ **能力評価** (p. 65~80)

#### 「Ⅱ. 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置」をしよう

域内の外国人の状況・ニーズ、地域のリソース等を基に、外国人の社会参加・エンパワーメントにつながるように日本語教室の目的を設定することが必要です。また、時間や場所は学習者の通いやすいものとする必要がありますが、その際、行政だけでなく、例えば学校や企業等、外国人に関わりのある機関・団体の協力を得ることが円滑な教室運営につながります。

こんなとき…	ここを使ってみてください。
<p>日本語教室の目的を設定しよう</p>	<p>ガイドブックの「日本語教育プログラムの具体例」を参考にして、どのような人にどのような日本語教室が必要か、確認しよう</p> <p>⇒ ガイドブック (p. 15~35)</p> <p>指導力評価の「指導力評価項目一覧(詳細版)」の「Ⅱ日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置」の欄を見て、どのようなことを検討すればいいのか確認しよう</p> <p>⇒ 指導力評価 (p. 24)</p>


### 「Ⅲ. 具体的な日本語教育プログラムの作成」をしよう

日本語教育のプログラムを作成する際、外国人の生活課題を解決し、社会参加・エンパワーメントにつながるものにすることが基本です。具体的には生活課題の解決につながるような生活上の行為を優先度が高いものから順に並べます。また、カリキュラム案で示している生活上の行為は地域性に対応したものではないので、それぞれの地域や外国人の状況に応じて工夫を加えることが必要です。

日本語教育プログラムにおける時間配分は、学習者による個人差に留意することが必要です。また、日本語教室では指導者やコーディネーターだけでなく、広く地域住民の参加・協力を得ることが有効です。教室活動により、学習者と地域住民との接点を作り、外国人が地域社会で暮らす際のネットワークの構築・社会参加につなげていくことが期待されます。

「生活者としての外国人」に対する日本語教育では、必要に応じて、教室外での行動・体験中心の活動も積極的に行うことが言語学習の促進につながります。その際、各日本語教室の体制や取り扱う生活上の行為に合わせて行動・体験中心の活動を適切に組み合わせて実施することが重要です。



こんなとき…	ここを使ってみてください。
<p>教室活動で取り上げる内容を考えよう</p> 	<p>「能力記述の一覧」を見て、生活上の行為ができるようになるために必要な能力記述を確認しよう ⇒ <b>能力評価</b> (p. 24～39)</p> <p>「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」を見て、生活上の行為を決めよう ⇒ <b>カリキュラム案</b> (p. 14～93)</p> <p>教材例集を見て、学習者のニーズに合わせて写真やイラスト、表現を変えよう ⇒ <b>教材例集のそれぞれの教材</b></p>
<p>教室活動の流れを考えよう</p>	<p>「カリキュラム案の活用例（実践例）」を参考にしよう ⇒ <b>カリキュラム案</b> (p. 99～107)</p> <p>「教室活動の展開例」を見てみよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 21, p. 27～28, p. 35)</p>
<p>教室活動の具体的な方法を考えよう</p>	<p>「活動方法の例の具体的な内容」を見てみよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 37～52)</p>
<p>教室活動の準備が十分か確認しよう</p>	<p>「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「Ⅲ 具体的な日本語教育プログラムの作成」の中から必要な項目を選んで、作業を確認しよう ⇒ <b>指導力評価</b> (p. 25)</p>





#### <コラム④> 地域における日本語教育の多様な学び

地域における日本語教育で、教室に参加する外国人の母語や言語学習経験や来日の目的は多様です。そのため、一律に教えることは難しく、教室活動では学習者の主体性を重視する必要があります。また、主体的かつ自律的な態度が日本語学習に対する関心と日本語力を高めることにつながり、学習者自ら日々の生活を通じて学び続けることへとつながっていきます。

その際、教室を離れても主体的かつ自律的に日本語学習が続けられるという自信を持ってもらうことが大切です。そのため、日本語学習が外国人にとって地域社会で生きていくための基盤となるように、教室活動においても地域住民との協働活動をできる限り取り入れ、教室活動が日常生活における対等な人間関係、さらにはネットワークの構築につながっていくよう工夫することが必要です。

そもそも、「生活者としての外国人」は日本語を学習するために日本に来たわけではない人がほとんどです。「とにかく、日本語」…ではなく、日本語を勉強してどうなりたいのか、何ができるようになりたいのか、日本語学習の先にあることを知ることが重要です。



#### <コラム⑤> 行動・体験中心の教室活動

外国語を勉強していて「知っているけど、いつ使うか分からない」、「知っているけど、うまく使えない」なんてことはありませんか。

生活上の行為を行えるようになるということは、その生活上の行為が行われる場面に関係する言語・社会・文化的な知識を使って行動できるようになるということです。実際に日常生活で出会うであろうと思われる場面や課題（タスク）を教室活動に持ち込み、あるいは教室を出て実際に地域社会に飛び出し、行動・体験中心の活動を組んでみてください。

実際に「行ってみる」、「やってみる」、「(地域の人や知りたいことの専門家を教室に)呼んでみる」、「まねてみる」、「見てみる」ことにより、教室活動の可能性は大きく広がり、ダイナミックなやり取りが展開されます。

そのときに、「(パンフレットや資料などを)取っておく」、「(写真などを)撮っておく」、「(その場で起こったやり取りや気になったことをメモに)書いておく」と、後で行動・体験したことを振り返って、内容を確認したり、話を広げたりすることができます。

さらに、それらの内容を文章にしたり、発表資料にまとめたり、「〇〇マップ」にして共有するなど、成果物を作ると、もっと教室活動が広がると同時に、地域とのつながりが目に見えていきます。

## 5. 2 日本語教室を見直そう！

### 「V. 日本語教育プログラムの点検」をしよう

実施している日本語教育プログラムが外国人のニーズにあったものになっているか、効果を上げているかを指導力評価の「Check」の部分を使って一度、振り返ってみましょう。記録を取ること、また、実践を複数の参加者の視点から振り返ることにより、より多様性に対応できる日本語教育プログラムを作成することができます。また、振り返った結果から成果と課題を整理すること、第三者にも伝えられるように成果と課題をまとめておくことが大切です。

こんなとき…	ここを使ってみてください。
日本語教室を振り返る	「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「V 日本語教育プログラムの点検」から必要な項目を選んで、作業を確認しよう ⇒ 指導力評価（p. 28～29）


### 「VI. 日本語教育プログラムの改善」をしよう

日本語教育プログラムの点検をして確認されたことについて、成果についてはより良い方策があるかどうか、課題については具体的に改善に向けた方策について検討しましょう。また、課題について改善策がなかなか出てこないときは、点検の際にまとめた成果と課題を周りと共に共有してみましょう。情報を共有し、意見を求めることで、協力者を得ることが出来たり、解決策が出てくる場合があります。

こんなとき…	ここを使ってみてください。
日本語教室の改善策を考えよう	「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「V 日本語教育プログラムの改善」から必要な項目を選んで、作業を確認しよう ⇒ 指導力評価（p. 29）  成果と課題について、意見を聞いてみよう ⇒ 指導力評価（p. 40～41）

## 5. 3 教材を作ろう！

「Ⅲ. 具体的な日本語教育プログラムの作成」をして、教材を作ろう  
日本語教育プログラムで使う教材を作ってみよう。

こんなとき…	ここを使ってみてください。
<p>教材で取り上げる内容を考えよう</p> 	<p>「生活上の行為の事例の一覧」, 「能力記述の一覧」を見て, どのような内容を取り上げるか考えよう ⇒ 能力評価 (p. 20~39)</p> <p>「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」, 「社会・文化的情報」を見て, 取り上げる内容のイメージをふくらまそう ⇒ カリキュラム案 (p. 14~93, p. 94~98)</p> <p>写真やパンフレットなどを盛り込んで地域の人を巻き込もう ⇒ 教材例集のそれぞれの教材</p>
<p>教育活動を振り返って, 作成した教材が役立ったかどうか確認しよう</p>	<p>「指導力評価項目一覧 (詳細版)」の「V 日本語教育プログラムの点検」を基に, 教材を使った活動がうまくいったかどうか, みんなで振り返ろう ⇒ 指導力評価 (p. 28~29)</p> <p>「学習の記録」を使って, 教材を使って学習したことを確認しよう ⇒ 能力評価 (p. 65~77)</p> <p>「生活上の行為達成の記録」を使って, 実際に学習者のためになったか, 学習者と確認しよう ⇒ 能力評価 (p. 54~64)</p>

「ロールプレイタスク例」を参考にして、実際にロールプレイタスクをして、「生活上の行為」ができるようになったかどうか確認しよう  
⇒ 能力評価 (p. 40~49)

## 5. 4 人材を育成しよう！

地域における日本語教育の中心になるのは人材です。持続的に活動をしていくためにも、活動の質を上げていくためにも、人材を育成することは重要です。また、育成の方法も、講演や研修だけではなく、有識者や経験者にアドバイザーなどの形で定期的に関わることをお願いしたりすることも有効です。さらに、それぞれの指導者の学びや成長のきっかけ、工夫などを共有し、学び合うコミュニティを育てることが、より魅力的な日本語教室につながります。

こんなとき…	ここを使ってみてください。
研修で新たにコーディネーターと指導者を育成しよう	「研修のプログラムの例」を参考に研修プログラムを作ろう ⇒ 指導力評価 (p. 44~47)
日々の活動を通して学び合おう	指導力評価のチェックシートをもとに、指導者やコーディネーターとともに日々の活動について振り返ろう ⇒ 指導力評価 (p. 30~39)
指導力の向上の役に立った情報を交換・共有しよう	「研修受講の記録について」を使って、指導力の向上にプラスになった情報を交換・共有しよう ⇒ 指導力評価 (p. 42~43)



## 5. 5 地域とつながろう！

「生活者としての外国人」のための日本語教育では、行動・体験中心の教室活動が大事ですが、そのためにはいろいろな協力者が欠かせません。

写真やパンフレット，チラシを提供してもらう，訪問させてもらう，インタビューの相手になってもらう，教室活動に参加してもらう，会話の相手になってもらう，普段の仕事や取り組んでいることを話してもらう…など，その関わりは本当に多様なものが考えられます。

ただし，その場合も，協力者にどのような関わりをしてもらいたいかといったことをあらかじめ伝えたり，協力者に対して，教室活動をスムーズに行うために必要と思われる資料や情報を事前に提供したり…といった工夫をすることが必要です。出会い方・つながり方を上手にデザインすることが求められます。

結果，思いもしなかった方向に話が膨らみ，イベントのお誘いを受けたり，場合によっては仕事を紹介してもらったり…といったこともあります。教室活動での出会い方・つながり方をうまくデザインして，参加者の相互理解を深め，地域社会にうまくつなげましょう。



こんなとき…	ここを使ってみてください。
協力者と一緒に教室運営をしよう	「指導力評価項目一覧（詳細版）」の関係者や協力者に関する項目を基に，どのような協力や調整が必要か確認しよう ⇒ 指導力評価（p. 24～29）
協力者と一緒に教室活動のデザインをしよう	「活動方法の例の具体的内容」の「協力者」を参考に，地域の人を巻き込んだ教室活動をデザインしよう ⇒ ガイドブック（p. 37～52）
協力者と一緒に教材を作ろう	教材例集を参考に，地域の写真やイラスト，パンフレットやチラシなどを盛り込んだ教材を作ろう ⇒ 教材例集

## 6 地域における日本語教育の体制整備に向けて

地域における日本語教育について、学習者は多様なニーズを持っているため、一つの日本語教室、一つの団体で全ての対応を行うのは困難です。行政、地域住民、日本語教育の専門機関等が協力し合い、それぞれの役割分担を確認した上で、日本語教育を実施することが必要です。

その際、教室活動を地域に開くこと、例えば、地域住民を教室に招き入れたり、また、逆に地域へ出かけていったりすることは重要です。

中でも、行動・体験中心の教室活動を通じて、学習者と地域住民がどのようにコミュニケーションをするか、両者の出会い・つながりをどのようにデザインするかということがポイントになります。



うまく出会い・つながりができれば、外国人にとっては日本語を使う相手・場面・場所が増えることになります。日本語での経験を積み上げていくと同時に、人とのつながりを増やしていくことは地域で暮らしていく上で、とても大きな意味を持ちます。

地域住民にとっては、学習者とのコミュニケーションを通して、外国人が顔の見える存在となるだけでなく、コミュニケーションを繰り返す中で、どのように話せば外国人に話が伝わるか、どのようにコミュニケーションをすればよいのかということが分かっていきます。

さらに両方にとって、コミュニケーションが積み重ねられていく中で相互に理解が深まり、人間関係も作られていきます。

これは学習者と地域住民だけではなく、行政機関や学校、企業などとの間でも同じことが言えます。コミュニケーションを積み重ねていく中で、つながりが生まれ、相互の理解が深まりますが、こうしたつながりは社会関係資本（ソーシャルキャピタル：social capital）と呼ばれており、外国人の社会参加にとって重要な資源となります。

地域における日本語教育の体制整備として、こういった場が地域のあちこちで展開され、学習者と地域住民のつながりが広がるだけでなく、つながりが深くなっていくことを期待しています。



## <コラム⑥> 社会参加

国境を越えて、人が移動し、さらに定住化の傾向が進む中、先進国を中心とする世界各国で文化的背景の多様な住民による共生社会構築のための取組が行われています。日本でも言語・文化的背景の多様な住民が増加してきています。このような状況の中、日本社会・文化の伝統を大切にしつつも、各人が互いに異なる文化や考え方を学び、尊重し合う社会を実現するため、言語・文化の多様性を尊重する社会を作ることが必要です。

また、日本では、日本語が多文化共生のためのコミュニケーションの手段にもなっています。この現実を踏まえ、言語・文化の相互尊重を前提としつつも外国人の社会参加が促進されるように、多様な背景を持つ住民間の相互理解や共同参画意識を向上させるための共通語としての日本語学習の促進を行うことが求められています。



## <コラム⑦> エンパワメント

人が自分の生まれ育った環境を離れ、外国へ移動する際、多かれ少なかれ、喪失体験が付いて回ります。家族や親戚、親しい友人、御近所さん、慣れ親しんだ生活環境や文化、仕事、自分を表現する方法や機会などと離れることになるからです。また、これまでできていたことが自分一人ではできなくなり、自分に対するイメージが変わったり、自信を失ったりすることもあります。

新たに社会に参入する「生活者としての外国人」にとって、日本語習得はそれ自体が最終目標ではありません。


獲得された意思疎通の手段により、人とつながること、言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画すること、つまり「エンパワメント」を実現することによって初めて目標に到達したと行うことができます。そのことをしっかりと見据えて、地域における具体的なプログラムを構築することが大切です。


## 7 実践のためのお助け早見表

ここでは、実践の際に、どういうときに5点セットのどこを使えばよいか、その対応関係を示しています。言わば、「5 こんな形で使ってください」(p. 19～26)の総集編です。

こんなとき…	ここを使ってみよう！
<b>日本語教室を立ち上げよう！</b>	
<p>日本語学習のニーズを知ろう</p>	<p>「生活上の行為の事例一覧（多言語版）」を使って、できるようになりたいこと、勉強したいことを聞いてみよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 53～66)</p> <p>日本語学習ポートフォリオの「学習の記録」や「社会生活の記録」を使って、普段、日本語をどうやって使っているか聞いてみよう ⇒ <b>能力評価</b> (p. 65～80)</p>
<p>日本語教室の目的を設定しよう</p>	<p>ガイドブックの「日本語教育プログラムの具体例」を参考にして、どのような人にどのような日本語教室が必要か、確認しよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 15～35)</p> <p>指導力評価の「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「Ⅱ 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置」の欄を見て、どのようなことを検討すればいいのか確認しよう ⇒ <b>指導力評価</b> (p. 24)</p>
<p>教室活動で取り上げる内容を考えよう</p>	<p>「能力記述の一覧」を見て、生活上の行為ができるようになるために必要な能力記述を確認しよう ⇒ <b>能力評価</b> (p. 24～39)</p>



こんなとき…	ここを使ってみよう！
	<p>「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」を見て，生活上の行為を決めよう ⇒ <b>カリキュラム案</b> (p. 14～93)</p> <p>教材例集を見て，学習者のニーズに合わせて写真やイラスト，表現を変えよう ⇒ <b>教材例集のそれぞれの教材</b></p>
<p>教室活動の流れを考えよう</p>	<p>「カリキュラム案の活用例（実践例）」を参考にしよう ⇒ <b>カリキュラム案</b> (p. 99～107)</p> <p>「教室活動の展開例」を見てみよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 21, p. 27～28, p. 35)</p>
<p>教室活動の具体的な方法を考えよう</p>	<p>「活動方法の例の具体的内容」を見てみよう ⇒ <b>ガイドブック</b> (p. 37～52)</p>
<p>教室活動の準備が十分か確認しよう</p>	<p>「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「Ⅲ 具体的な日本語教育プログラムの作成」の中から必要な項目を選んで，作業を確認しよう ⇒ <b>指導力評価</b> (p. 25)</p>
<p><b>日本語教室を見直そう！</b></p>	
<p>日本語教室を振り返ろう</p>	<p>「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「Ⅴ 日本語教育プログラムの点検」から必要な項目を選んで，作業を確認しよう ⇒ <b>指導力評価</b> (p. 28～29)</p>
<p>日本語教室の改善策を考えよう</p> <div data-bbox="322 1584 459 1709" style="text-align: center;">  </div>	<p>「指導力評価項目一覧（詳細版）」の「Ⅴ 日本語教育プログラムの改善」から必要な項目を選んで，作業を確認しよう ⇒ <b>指導力評価</b> (p. 29)</p>

こんなとき…	ここを使ってみよう！
	<p>成果と課題について、意見を聞いてみよう ⇒ 指導力評価 (p. 40～41)</p>
<b>教材を作ろう！</b>	
<p>教材で取り上げる内容を考えよう</p> <div data-bbox="332 556 482 683" style="text-align: center;">  </div>	<p>「生活上の行為の事例の一覧」, 「能力記述の一覧」を見て, どのような内容を取り上げるか考えよう ⇒ 能力評価 (p. 20～p. 39)</p> <p>「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」, 「社会・文化的情報」を見て, 取り上げる内容のイメージをふくらませよう ⇒ カリキュラム案 (p. 14～93, p. 94～98)</p> <p>写真やパンフレットなどを盛り込んで地域の人を巻き込もう ⇒ 教材例集のそれぞれの教材</p>
<p>教師活動を振り返って, 作成した教材がよかったかどうか確認しよう</p>	<p>「指導力評価項目一覧 (詳細版)」の「V 日本語教育プログラムの点検」を基に, 教材を使った活動がうまくいったかどうか, みんなで振り返ろう ⇒ 指導力評価 (p. 28～29)</p> <p>「学習の記録」を使って, 教材を使って学習したことを確認しよう ⇒ 能力評価 (p. 65～77)</p> <p>「生活上の行為達成の記録」を使って, 実際に学習者のためになったか, 学習者と確認しよう ⇒ 能力評価 (p. 54～64)</p> <p>「ロールプレイタスク例」を参考にして, 実際にロールプレイタスクをして, 学習者の役に立ったかどうか確認しよう ⇒ 能力評価 (p. 40～49)</p>

こんなとき…	ここを使ってみよう！
<b>人材を育成しよう！</b>	
研修で新たにコーディネーターと指導者を育成しよう	「研修のプログラムの例」を参考に研修プログラムを作ろう ⇒ 指導力評価 (p. 44～47)
日々の活動を通して学び合おう	指導力評価のチェックシートをもとに、ともに振り返ろう ⇒ 指導力評価 (p. 30～39)
指導力の向上の役に立った情報を交換・共有しよう	「研修受講の記録について」を使って、指導力の向上にプラスになった情報を交換・共有しよう ⇒ 指導力評価 (p. 42～43)
<b>地域とつながろう！</b>	
協力者と一緒に教室運営をしよう	「指導力評価項目一覧（詳細版）」の関係者や協力者に関する項目を基に、どのような協力や調整が必要か確認しよう ⇒ 指導力評価 (p. 24～p. 29)
協力者と一緒に教室活動のデザインをしよう	「活動方法の例の具体的内容」の「協力者」を参考にして、地域の人を巻き込んだ教室活動をデザインしよう ⇒ ガイドブック (p. 37～52)
協力者と一緒に教材を作ろう	教材例集を参考に、地域の写真やイラスト、パンフレットやチラシなどを盛り込んだ教材を作ろう ⇒ 教材例集

## 8 Q & A

### Q 1. カリキュラム案など、5点セットはどこで手に入れることができますか？

A. 文化庁WEBサイトからダウンロードすることができます。また、郵送料を御負担いただければ、冊子をお送りいたします。

[参考] 文化庁 WEB サイト 日本語教育のページ

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/)

### Q 2. カリキュラム案など、5点セットを活用した事例はありますか？

A. 文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業では、平成24年度からカリキュラム案等を活用することとなっています。文化庁WEBサイトの日本語教育のページ（「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の部分）から、事業実施報告書や5点セットに基づいて作成した教材などを御覧いただくことができます。また、一部の教材については、ダウンロード後、編集して利用いただくことも可能となっています。

ほかにも、日本語教育に関するポータルサイトである「日本語教育コンテンツ共有システム：NEWS」（文化庁作成）から「カリキュラム案等の活用」を条件として、コンテンツを検索していただくことができます。

（※検索結果には、上記、生活者事業の事業報告、教材も含まれます。）

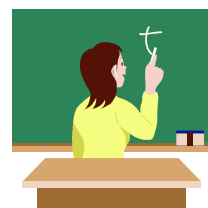
[参考] 日本語教育コンテンツ共有システム NEWS

<http://www.nihongo-ews.jp/>

（NEWSは **N**ihongo **E**ducation contents **W**eb sharing **S**ystem の略です。）

**Q 3. 5点セットを活用するときに、文法や文字はいつ、どうやって教  
えればいいですか？**

- A. 5点セットは来日間もない外国人が生活上の基盤を形成する上で必要な生活上の行為を取り上げていますが、5点セットの中で文法や文字に関する学習のタイミング、方法は示していません。これは必要がないということではありません。教室活動で取り上げる生活上の行為の内容に応じて、必要に応じて、他の教材も取り上げてください。



文法や文字（読み書き）のいずれも日本で長く暮らし、仕事を得たり、子育てをしたりしていく中では欠かせません。

**Q 4. 5点セットについて、もっと詳しく知りたいのですが、どうすればいいですか？**

- A. 研修や講演などについては文化庁文化部国語課の日本語教育専門職まで御連絡ください。また、事業の展開についても御相談ください。



[参考] 文化庁文化部国語課 日本語教育専門職  
電話：03-5253-4111（内線2644）  
メール：nihongo@bunka.go.jp